

被爆体験記における雨等の記述について

令和3年7月
厚生労働省

雨の記述について(例)

体験記における描写	調査における分類	
	時刻の分類	雨の強さ
家に帰り後片付けも終わったころ、大小色々な紙片が、中には焼けかけが沢山空からとんで来て 風が吹き黒い雨が降ってきました <u>午前10時過ぎ</u> には、火傷して服が破れ布がたれ下り黒い雨にかかったためにどす黒くなっていました。	午前	強弱の記述なし
<u>16時頃</u> だったでしょうか、天がにわかにくもり、 <u>大粒の雨が、大凡そ1地時間位</u> 降りました。後でいう黒い雨です。	午後	強弱の記述なし
<u>昼過ぎ</u> なのに陽が暮れたように暗い。ぶきみな気がする。 <u>ポツポツと黒い雨が降りだした</u> 。父が「わしやあ60年も生きて来たが黒い雨がふるのははじめて見るわい」と空を見上げている。庭に立ってた私のブラウスがポツポツと黒ずんで来た。手のひらにも腕にも顔にも黒い雨が線を引く原爆の恐ろしさも露知らず 皆もの珍しく外に出て黒い雨に濡れていた。	午後	弱い
<u>夕刻までに黒い雨が降り、その後書類や屋根のへギが降ってきて、</u>	午後	強弱の記述なし
<u>その内降って来た小雨と共に</u>	不明	弱い
散乱したものを片付けていたら雨が降ってきた。白いブラウスを着ていた私は雨に濡れてブラウスが灰色の水玉模様に汚れていくのに不審を抱き、皆を屋内に入れた。雨は <u>小雨程度</u> でおさまった。	不明	弱い
帰る途中、雨が降り始めましたので、大急ぎで山を降り、家に着いた時には <u>大雨</u> で、その上本当に、天が落ちる程の、手のたいそうな所まで真暗になりました 後で聞きますと、雨に会った服は黒いしみがついて、おちなくなったそうです。	不明	強い
草を刈って居るとドンと大きい音がしビックリしました。そうして居ると雨が降り	不明	強弱の記述なし
空一面に雲が広がり、夜のようにまっ暗くなり、黒い雨が <u>夕立の様に</u> 降り始めた。	不明	強い
記念撮影の為、並び写真を撮っていると雨が降ってきました。 黒い雨です。妹の着ていた服の白い襟に、洗濯でも取れないシミが付きました。	不明	強弱の記述なし

雨以外の飛散物の記述について(例)

体験記における描写

焼けた紙切れや灰が飛んできた

空を見上げると新聞や雑誌の切れ端のようなものが落ちてきました。

そうすると、紙くずが落ちてきました。ちょうど、大雪の時に雪がパラパラ落ちるように、下から見ると、くずれすずのようなものが落ちてきますが、大きくて、花びらのような紙くずでした。

1時間ではなく、1時間半から2時間ぐらいはたっていました。

タンゼンの切れ端や、清涼飲料水の工場のレットルが降ってきたと言っていました。

その工場の女の子も一緒だったそうです。とにかく色んな物が降ってきたようです。

爆風が吹いてきて、たくさんの紙がすごく舞い降りました。

爆風が止んだあとに落ちた紙をよく見たら、通帳や襖の焼け焦げた紙切れがたくさん舞い散っていたので、母は驚きました。

火事のため、黒い焼け焦げたものが舞い上がって降っているのは学校を出る前には、見ました。

黒い空からごみがパラパラ、パラパラと落ちて来ました。

ほこりやかなり大きなノートの切れ端みたいなものが飛んで来ました。

地上から吹き飛ばされたらしい物がフワフワと山の方へ落ちて行きました。

畑仕事に出て居ると服地、草木、フスマの紙等が落ちてきました。

私が住んでいた中広町のとなりの町、小河内二丁目（南三篠）の山肩のお米の通帳が飛んで来ました。

黒雲と共に紙、布、佛具等が大量に飛来して来ました。

白い粉の様なものが降り

家の前には、きのこ雲のみえた後であったが、トタン状のものが数枚ふってくるのが見えた。

更にその後、夕立雲のような黒い雲が空を被って暗くなり空からたくさんのそぎ板などのようなものが落ちてきて、やがて黒い雨が降り始めてきた。

黒い雲と共に灰色の雨にゴミが交って降って来た